

金城学院高等学校

## 福原 寛 教諭

中学時代、優しく話をきいて自分を受け止めてくださった先生に憧れてこの道を選んだ福原先生。

中学の教師になって間もない頃、

学院の音楽宣教師であるケリー先生から学んだ

すばらしい教えを引き継ぎながら、日々指導していらっしゃいます。

また生徒指導課の課長として「品位ある女性として成長してもらいたい」と願いながら、常に優しく生徒たちを見守っていらっしゃいます。



品位ある生き方をし、自分自身で気づき、  
考えられる人になってもらいたい

福原寛教諭／関西学院大学卒業後、1976年に金城学院中学校の英語教師となり、中学校・高等学校で37年間教鞭を執る。英語の教師として、また生徒指導課の課長として日々生徒たちの指導にあたっている。

## 恩師と出会い 尊敬から教師の道に

中学生の時、すばらしい先生に巡り会いました。その先生はとにかくどんな話でも真剣に聞いてくれて、私という人間をきちんと受け止め、認めてくださっていたのです。先生と話をすることで心が軽やかになり、だんだんと自分に自信が持てるようにもなっていました。そんな素敵な先生との出会いで「自分も将来は先生のような人になりたい」と思い始めたのが、教師の道を選んだきっかけです。

私はキリスト教主義の学校に育ち、縁があって同じキリスト教主義である金城学院中学校に導かれて、教師となることができましたのです。

## ケリー先生との出会い、 その教えを今に引き継ぐ

中学では英語科の新任教師として授業を担当するかたわら、金城学院に日本初のハンドベルクワイアを作られた音楽宣教師のケリー先生にお供して、第1回目のハンドベル全国大会などさまざまな演奏会へ一緒に出かけさせていただきました。私は大学時代にオーケストラでバイオリンを担当し、音楽は聞くのも演奏するのも大好きでしたから、しばらくの間ハンドベルクワイアの顧問も担当しました。その間にケリー先生にはハンドベルを



新任当初の福原先生。ケリー先生と。

はじめ、音楽に対する情熱などさまざまなことを教えていただきました。

中でも印象的だったのは「人それぞれに神様から賜物が与えられている。何とかしてその賜物を生かす手助けをしてあげたい」とおっしゃられた言葉です。ケリー先生は生徒たちに決して「だめ」とはいわず、やってみたいと思ったことをいろいろさせていらっやいました。また生徒たちを教える時はポケットからいろいろな物を取り出し、それを使ってとても楽しく興味深く教えていらっやったのも思い出します。その先生の姿を見て、私も「神様から生徒たち一人ひとりに与えられた恵みを知ってほしい」と思い、今もずっとその教えを受け継いで指導にあたっています。この学院に入ってケリー先生と出会えたこと、一緒に行動できたことは私の人生の中でもかけがえのない出来事であり、その出会いに深く感謝しています。

その後異動した金城学院高等学校では、生徒たちの熱意を受けて「空手道クラブ」の設立に係わりました。クラブ設立後、一生懸命に練習して見事



## 福原先生はどんな人!?

1年生の時に福原先生のクラスだった皆さんに、福原先生の印象を伺いました。すると皆さん口を揃えて「とても優しく思いやりがある先生」という言葉が返って来ました。「キリスト教の教えを心にしみるまで何度も話してくれる」という話や「球技大会の時、先生は他のクラスの監督だったけれどちゃんと応援に来てくれた」という話も飛び出し、大変生徒想いの先生であることも伺えました。

全国大会にも出場を果たした生徒たちの姿を見て、改めて金城学院で学ぶ生徒たちのひたむきさや熱意を実感したことを覚えています。またそんなすばらしい生徒たちから教えてもらったことは数え切れないほどで、一緒に過ごした日々は今でも大切な思い出となっています。

## 英語を学ぶだけではなく どう使うかを考える人に

現在は高校で英語を教え、また生徒指導課の課長として日々指導にあたっています。英語の授業ではいつも「英語を学ぶだけではなく、英語を使って何をするかを考えてほしい」と話しています。現代はメールやネットもあり、世界中の人々とコミュニケーションが取れる時代です。だからこそ英語をただ学ぶのではなく、もっとグローバルに視野を広げて、英語を使って何をするか、何ができるのかを考えてほしいと思います。そして将来はここで身につけたことを存分に発揮し、リーダー的な女性となって活躍してほしいと思っています。

またキリスト教主義の学校の生徒として、常に品位を持って行動することができる人になってほしいと思います。私はケリー先生の教えにならない、「これはいけない、だめだ」というだけの指導はしないようにしています。人から「だめ」といわれるだけでは、何も変わらない。自分自身が気づき、考えることで自分が変わっていくと思うからです。

どんな時も神様はいつも見守っていて下さる、その気持ちを忘れずに、品位ある人間として、また自分に誇れるものを持つ人として生きていってほしい。人には負けないものを、ぜひ学生時代に身につけてほしいと願っています。

卒業して何年か後に「あの時の先生の言葉はこういう意味だったんだ」と思ってもらえるような、そんな指導をこれからもしていきたいと思っています。